

平成 26 年 10 月 22 日

報道関係者各位

世界脳卒中デー・キャンペーン 2014

「アイ・アム・ウーマン：脳卒中になったら」について

(公社) 日本脳卒中協会
理事長 山口武典



日本脳卒中協会が加盟している世界脳卒中機構（World Stroke Organization）は、10月29日の世界脳卒中デーに、女性と脳卒中にスポットを当てた「アイ・アム・ウーマン：脳卒中になったら」という世界キャンペーンを行います。なぜなら、女性は男性よりも長命であり、高齢者ほど脳卒中になりやすいため、一生の間に脳卒中を起こしやすく、また身近な家族やパートナーが脳卒中になったとき、女性が中心になって介護に当たることが多いからです。資料の日本語版を下記の世界脳卒中機構のホームページからダウンロードできますので、ご参照ください。このキャンペーンには、脳卒中を体験された沼尾ひろ子さんがキャンペーン・パーソナリティとしてご協力くださっています。

<http://www.worldstrokecampaign.org/get-involved/campaign-advocacy-brochures.html>

なぜ、女性にスポットを当てるのか：海外のエビデンスから

- ・ **女性の方が脳卒中になる危険性が高い！**

一生の間に脳卒中を起こす確率は、男性の場合は6人に1人であるのに対して、女性の場合、5人に1人と女性の方が高いです。特に85歳以上の女性は、他の年代と比較して最も脳卒中発症の危険性が高くなります。

脳卒中の主要な危険因子を持っている方は、実は男性より女性に多くみられます。女性特有の危険因子もあります。脳卒中の危険因子である糖尿病、片頭痛（視覚に関する前兆のあるもの）、心房細動、うつ状態、高血圧は、男性より女性の方が持っている方が多いという報告があります。加えて、妊娠、子癇、経口避妊薬（ピル）の使用（特に高血圧のある女性の場合）、閉経後のホルモン補充療法、ホルモンバランスの変化、妊娠糖尿病などは、女性特有の脳卒中の危険因子です。

- ・ **女性が脳卒中になると、男性よりも転帰が悪い！**

女性が脳卒中になると、認知機能の低下がより重度で、施設に入所する可能性が高く、脳卒中後にうつ状態になる危険性も高いことがわかっています。脳卒中になった女性は必要性に見合ったケアを受けることが男性に比べて少ないという報告があります。

- ・ **ある種類の脳卒中は女性により多い！**

例えば、頭蓋内の静脈血栓による脳卒中や、脳動脈瘤の破裂によるくも膜下出血は、女性により多く見られます。

- ・ **女性の介護負担が大きい！**

介護負担は圧倒的に多く女性にのしかかってきます。これは重要な問題です。脳卒中などの重い病気になった配偶者を介護する女性は、精神的ストレスを感じる事が多く、「うつ」など、心の健康が損なわれる人も少なくありません。更に、うつ状態になった女性は、脳卒中になる危険性が高いことが報告されています。

- ・ **脳卒中になった女性は社会から孤立！**

女性は発症年齢が男性よりも高齢であるため、しばしば脳卒中になる以前から独居で寡婦であることが多く、そのため、脳卒中後に施設に入所するケースが多く、男性よりも社会復帰が困難です。

- ・ **女性は十分なケアを受けていない！**

脳卒中になった女性は、男性と比べると、十分なケアを受けられないことがしばしばあります。治療への反応には男女で違いはありませんが、女性のほうが急性期治療やリハビリを受ける機会が少なくなりがちです。

なぜ、女性にスポットを当てるのか：日本人のデータから

日本人について、男女差という観点から分析された報告は、残念ながら多くはありません。我が国で報告された男女差を紹介します。

- ・ **女性の方が、一生の間に脳卒中になる危険性（生涯リスク）が男性よりも高い！**

45才の日本人女性がその後亡くなるまでに脳卒中になるのは20.2%、男性では18.9%です。少しですが女性の方が高いのです。

脳卒中には、脳の血管が詰まる脳梗塞、脳内の細い血管が破れて出血する脳出血、脳の動脈瘤が破れて脳の表面に出血するくも膜下出血があります。脳梗塞については、45才の女性がその後亡くなるまでに脳梗塞になるのは15.6%、男性は15.0%、脳出血については、女性は1.6%、男性は2.4%、くも膜下出血については、女性2.6%、男性0.7%です¹⁾。脳梗塞とくも膜下出血については女性の方がリスクが高く、脳出血は男性の方が高いことが分かります。

脳卒中の危険因子については、高血圧²⁾、糖尿病³⁾、脂質異常症⁴⁾、心房細動⁵⁾は男性に多く、うつ病⁶⁾、片頭痛⁷⁾は女性に多いことが報告されています。

- ・ **女性が脳梗塞になると、男性よりも転帰が悪い！**

女性が脳梗塞になると、重症で、入院期間が長く、退院時のQOLも悪いことが報告されています。脳出血やくも膜下出血については、男女差がありません⁸⁾。

- ・ **ある種類の脳卒中は女性のほうが多い！**

くも膜下出血は女性が多いことが報告されています⁹⁾。

- ・ **脳梗塞発症後に病院に到着するのは男性よりも遅い！**

75歳未満の女性が軽症の脳梗塞になった場合、発症から入院までの時間が、同じく軽症脳梗塞の男性の2倍であったと報告されています。ただし、中等症以上の脳梗塞や75歳以上では男女差はありませんでした¹⁰⁾。

出典：

1) Tirin TC et al. Stroke 2010; 41:1552-4.

2) Miura K et al. Circ J 2013; 77:2226-31.

- 3) 厚生労働省. 平成 24 年国民健康・栄養調査報告. 2012.
- 4) 厚生労働省. 平成 22 年国民健康・栄養調査報告. 2000.
- 5) Ohsawa M, et al. J Epidemiol 2005; 15: 194-6.
- 6) 厚生労働省地域におけるうつ対策検討会, うつ対策推進方策マニュアルー都道府県・市町村職員のためにー<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/01/s0126-5.html#1>.
- 7) Sakai F et al. Cephalalgia 1997; 17:15-22.
- 8) 汐月博之他, 脳卒中データバンク 2005, p38-39, 中山書店, 東京, 2005.
- 9) Kita Y, et al. Int J Stroke 2009; 4: 241-9.
- 10) 住田陽子他, 脳卒中 2009; 31: 346-348.

「アイ・アム・ウーマン」キャンペーン発信へのご協力を

脳卒中の大部分は生活習慣を変えることによって予防可能です。脳卒中を撲滅するにはさらに、啓発、予防、急性期から維持期に亘るケアと支援において、女性への格別の配慮が必要です。この「アイ・アム・ウーマン」キャンペーンを、ぜひ一般市民にお伝えくださいますよう、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

本件に関するお問い合わせ先：

(公社) 日本脳卒中協会事務局

担当：中山 (Tel:06-6629-7378, Fax: 06-6629-7377, Email : info@jsa-web.org)

公益社団法人日本脳卒中協会について

脳卒中に関する正しい知識の普及及び社会啓発による予防の推進ならびに脳卒中患者の自立と社会参加の促進を図り、国民の保健、福祉の向上に寄与することを目的とし、平成 9 年 3 月に任意団体として設立され、平成 17 年 3 月に社団法人として認可後、平成 24 年 10 月 1 日に公益社団法人に移行しました。平成 26 年 3 月現在、46 都道府県に 48 の支部があり、脳卒中を発症した患者さんやご家族を始め、医療従事者、行政・福祉関係者、一般の方々への情報提供や調査研究活動などを行っています。日本脳卒中協会に関する詳細は、ホームページ (<http://jsa-web.org>) をご参照ください。